



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年2月12日

上場取引所 東

上場会社名 ロート製薬株式会社

コード番号 4527

URL <https://www.rohto.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 杉本 雅史

問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長

(氏名) 斉藤 雅也

(TEL) 06-6758-8223

四半期報告書提出予定日 2020年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	138,119	2.5	18,126	5.4	18,072	2.6	12,562	15.6
2019年3月期第3四半期	134,695	8.5	17,192	10.2	17,621	11.9	10,871	7.6

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 9,434百万円(11.5%) 2019年3月期第3四半期 8,459百万円(△44.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	110.17	109.82
2019年3月期第3四半期	95.40	95.03

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	204,673	138,177	66.9
2019年3月期	200,953	132,189	65.1

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 136,906百万円 2019年3月期 130,773百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	11.00	—	14.00	25.00
2020年3月期	—	13.00	—		
2020年3月期(予想)				13.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 2019年3月期期末配当金の内訳 普通配当 12円00銭 記念配当 2円00銭

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	184,000	0.2	21,500	3.3	21,300	12.3	13,500	37.8	118.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2020年3月期3Q	118,089,155株	2019年3月期	117,989,908株
2020年3月期3Q	4,018,947株	2019年3月期	4,018,825株
2020年3月期3Q	114,030,580株	2019年3月期3Q	113,951,302株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料 3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、一時的に消費税増税の影響があったものの企業収益や雇用環境の改善により底堅く推移しております。一方で米中間の貿易摩擦問題の長期化や中国および欧州経済の減速懸念等、先行きが不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは顧客志向の新製品開発やマーケティング活動により新規分野への展開を図るとともに、既存分野におきましても消費者ニーズの変化に対応した高付加価値の製品を開発し、市場の活性化に努めてまいりました。

その結果、売上高は1,381億1千9百万円（前年同期比 2.5%増）となりました。日本におきましては、前年同期は塩野義製薬㈱からのライセンス契約一時金収入がありましたが、当第3四半期連結累計期間はアイケア関連品や機能性化粧品の中の高付加価値商品が好調で増収となりました。海外におきましては、ベトナムやマレーシアなどASEAN諸国が好調に推移いたしました。

利益面につきましては、売上が好調に推移したことや販売費及び一般管理費の効率的活用にも努めました結果、営業利益は181億2千6百万円（同 5.4%増）、経常利益は180億7千2百万円（同 2.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は125億6千2百万円（同 15.6%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

(日本)

外部顧客への売上高は、870億1千2百万円（前年同期比 3.3%増）となりました。

主力のアイケア関連品は、高機能眼科用薬「Vルートプレミアム」シリーズなどの高付加価値商品やコンタクトレンズが堅調に推移していることに加え、新製品の花粉関連品「ルートアルガードクリニカルショット」の出荷が順調に進みました。しかしながら、前年同期に美少女戦士セーラームーンとのコラボレーションを実施した「ロートリセ」シリーズの反動減の影響もあり前年同期並みにとどまりました。一方、スキンケア関連品につきましては、多くの美容雑誌のベストコスメ賞を獲得した美容液「オバジC25セラム ネオ」や新製品のハンドクリーム「オーラザハンド」さらにSNSで話題となった「デオコ」が好調で増収に寄与いたしました。また、内服関連品では、目のサプリメント「ルートV5粒」が好調でした。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、収益基盤である日本でのコアビジネスを強化すべく構造改革を進めており、それに伴う先行費用が発生していますが、売上が好調に推移したことにより114億7千2百万円（同 6.6%増）となりました。

(アメリカ)

外部顧客への売上高は、66億2千6百万円（前年同期比 1.9%減）となりました。

米国経済が個人消費の堅調な推移により緩やかな回復基調にあるものの、目薬の競争激化により売上が伸び悩みました。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、売上が伸び悩んだものの、費用の効率的活用により4千6百万円（同 216.3%増）となりました。

(ヨーロッパ)

外部顧客への売上高は、68億3百万円（前年同期比 3.5%増）となりました。

売上につきましては、主力の消炎鎮痛剤「ディープヒート」シリーズが順調に推移しております。また、新たに進出したロシアも増収に寄与していることに加え、ダクス・コスメティクス社も現地通貨ベースでは堅調に推移しております。

一方、セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、売上は好調に推移したものの、主力の消炎鎮痛剤「ディープヒート」シリーズの販売促進費が増加した結果、2億4百万円（同 36.2%減）となりました。

(アジア)

外部顧客への売上高は、363億7千1百万円（前年同期比 2.0%増）となりました。

売上につきましては、香港デモや韓国における日系商品の不買運動などの影響はあるものの目薬や日やけ止めが堅調に推移いたしました。主力の中国におきましては、「肌ラボ」シリーズは苦戦しているものの、目薬が好調に推移しております。ベトナムやマレーシアなどASEAN諸国では「肌ラボ」シリーズが好調に推移いたしました。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、売上が好調であったことに加え販売促進費の効率的活用により、60億4千4百万円（同 5.1%増）となりました。

(その他)

報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外部顧客への売上高は、13億5百万円（前年同期比 9.9%減）となりました。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、9千2百万円（同 30.0%減）となりました。

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産総額は2,046億7千3百万円となり、前連結会計年度末より37億2千万円増加いたしました。これは、現金及び預金が32億9千7百万円、原材料及び貯蔵品が11億9千万円それぞれ増加した一方、投資有価証券が19億1千2百万円、土地等のその他の有形固定資産が10億1千6百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

負債総額は664億9千6百万円となり、前連結会計年度末より22億6千8百万円減少いたしました。これは、預り金等のその他の流動負債が14億4千5百万円、支払手形及び買掛金が14億9百万円それぞれ増加した一方、未払費用が31億6千8百万円、短期借入金が17億9千4百万円、賞与引当金が10億7千4百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

また、純資産につきましては1,381億7千7百万円となり、前連結会計年度末より59億8千8百万円増加いたしました。これは、利益剰余金が91億3千4百万円増加した一方、為替換算調整勘定が22億7千6百万円、その他有価証券評価差額金が9億3千万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績は、おおむね計画通りに推移しているため、2019年5月10日に公表いたしました通期の業績予想は変更しておりません。

※上記の予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	37,856	41,153
受取手形及び売掛金	32,217	32,458
電子記録債権	12,540	13,303
商品及び製品	17,495	17,556
仕掛品	2,638	3,076
原材料及び貯蔵品	10,127	11,318
その他	3,918	4,617
貸倒引当金	△393	△325
流動資産合計	116,402	123,158
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	19,907	19,251
その他（純額）	27,514	26,497
有形固定資産合計	47,421	45,749
無形固定資産		
のれん	1,083	1,223
その他	2,481	2,462
無形固定資産合計	3,565	3,685
投資その他の資産		
投資有価証券	28,530	26,618
その他	7,587	8,128
貸倒引当金	△2,553	△2,666
投資その他の資産合計	33,563	32,080
固定資産合計	84,550	81,515
資産合計	200,953	204,673
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,005	12,414
電子記録債務	3,063	3,050
短期借入金	3,745	1,950
未払費用	25,954	22,785
未払法人税等	3,548	4,113
賞与引当金	2,274	1,199
役員賞与引当金	40	30
返品調整引当金	606	706
売上割戻引当金	2,594	2,317
その他	7,928	9,373
流動負債合計	60,760	57,941

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
固定負債		
長期借入金	1,424	1,372
退職給付に係る負債	3,584	3,522
債務保証損失引当金	1,742	1,999
その他	1,252	1,660
固定負債合計	8,004	8,554
負債合計	68,764	66,496
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,446	6,504
資本剰余金	5,603	5,661
利益剰余金	119,989	129,124
自己株式	△4,935	△4,935
株主資本合計	127,105	136,354
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,279	5,349
為替換算調整勘定	△1,161	△3,438
退職給付に係る調整累計額	△1,449	△1,358
その他の包括利益累計額合計	3,667	552
新株予約権	498	382
非支配株主持分	917	887
純資産合計	132,189	138,177
負債純資産合計	200,953	204,673

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	134,695	138,119
売上原価	54,495	55,175
売上総利益	80,200	82,944
返品調整引当金繰入額	9	100
差引売上総利益	80,191	82,843
販売費及び一般管理費	62,998	64,717
営業利益	17,192	18,126
営業外収益		
受取利息	267	371
受取配当金	368	502
その他	249	479
営業外収益合計	885	1,353
営業外費用		
支払利息	109	95
持分法による投資損失	74	1,124
その他	272	188
営業外費用合計	456	1,408
経常利益	17,621	18,072
特別利益		
固定資産売却益	—	153
投資有価証券売却益	—	1,428
特別利益合計	—	1,581
特別損失		
固定資産除却損	151	—
投資有価証券評価損	170	377
関係会社株式評価損	299	144
貸倒引当金繰入額	210	149
関係会社貸倒引当金繰入額	9	20
債務保証損失引当金繰入額	218	—
特別損失合計	1,058	690
税金等調整前四半期純利益	16,563	18,962
法人税等	5,652	6,353
四半期純利益	10,910	12,609
非支配株主に帰属する四半期純利益	38	47
親会社株主に帰属する四半期純利益	10,871	12,562

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	10,910	12,609
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,947	△883
為替換算調整勘定	△564	△2,119
退職給付に係る調整額	52	91
持分法適用会社に対する持分相当額	7	△263
その他の包括利益合計	△2,451	△3,174
四半期包括利益	8,459	9,434
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,494	9,447
非支配株主に係る四半期包括利益	△35	△12

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(会計方針の変更)

(1) 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書(ASC)第606号「顧客との契約から生じる収益」

一部の在外連結子会社において、第1四半期連結会計期間よりASC第606号「顧客との契約から生じる収益」を適用しております。

これにより、約束した財又はサービスが顧客に移転された時点で、当該財又はサービスと交換に権利を得ると見込む対価を反映した金額で、収益を認識しております。

当該会計基準の適用については、経過的な取扱いに従って、本基準の適用による累積的影響額を適用開始日に認識する方法を採用し、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金は349百万円減少しております。また、当第3四半期連結累計期間の売上高、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ3百万円増加しております。

(2) 国際財務報告基準(IFRS)第16号「リース」

一部の在外連結子会社において、第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号「リース」を適用しております。当該会計基準の適用については、経過的な取扱いに従って、本基準の適用による累積的影響額を適用開始日である第1四半期連結会計期間の期首に認識する方法を採用しております。

過去に国際会計基準(IAS)第17号を適用してオペレーティング・リースに分類した借手としてのリースについては、適用開始日に、使用権資産及びリース負債を認識しております。また、投資その他の資産の「その他」に含めていた一部の資産についても使用権資産への振替を行っております。

この結果、当第3四半期連結貸借対照表において、有形固定資産の「その他(純額)」が680百万円、流動負債の「その他」が130百万円、固定負債の「その他」が194百万円それぞれ増加し、投資その他の資産の「その他」が369百万円減少しております。

なお、当第3四半期連結累計期間の損益及び1株当たり情報に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント (注) 1					その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 4
	日本	アメリカ	ヨーロッパ	アジア	計				
売上高									
(1) 外部顧客への 売上高	84,249	6,756	6,576	35,665	133,247	1,448	134,695	—	134,695
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	2,575	938	129	2,403	6,047	84	6,132	△6,132	—
計	86,824	7,695	6,705	38,069	139,294	1,532	140,827	△6,132	134,695
セグメント利益	10,761	14	319	5,751	16,847	132	16,980	212	17,192

(注) 1 「アメリカ」の区分は米国、ブラジル等の現地法人の事業活動、「ヨーロッパ」の区分は英国、ポーランド、南アフリカの現地法人の事業活動、「アジア」の区分は中国、台湾、ベトナム等の現地法人の事業活動を含んでいます。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリアの現地法人の事業活動を含んでいます。

3 セグメント利益の調整額212百万円は、全額がセグメント間取引消去であります。

4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント (注) 1					その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期 連結損益計 算書 計上額 (注) 4
	日本	アメリカ	ヨーロッパ	アジア	計				
売上高									
(1) 外部顧客への 売上高	87,012	6,626	6,803	36,371	136,813	1,305	138,119	—	138,119
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	2,592	1,084	58	2,574	6,309	29	6,339	△6,339	—
計	89,605	7,710	6,861	38,945	143,123	1,335	144,458	△6,339	138,119
セグメント利益	11,472	46	204	6,044	17,766	92	17,859	266	18,126

(注) 1 「アメリカ」の区分は米国、ブラジル等の現地法人の事業活動、「ヨーロッパ」の区分は英国、ポーランド、南アフリカの現地法人の事業活動、「アジア」の区分は中国、台湾、ベトナム等の現地法人の事業活動を含んでいます。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリアの現地法人の事業活動を含んでいます。

3 セグメント利益の調整額266百万円は、全額がセグメント間取引消去であります。

4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。